

社団法人日本建築構造技術者協会設立趣意書

戦後廃虚の中から立ち上がった我が国の復興と成長は目覚ましく、建設関連事業への投入エネルギーも莫大なものであった。その間、構造設計業務は明確に社会に定着し、構造設計者は幾多の技術革新を成し遂げてきた。いま、都心の空に超高層建築が林立し、全国津々浦々に鉄骨造、鉄筋コンクリート造の耐火・耐震建築が普及し、社会生活環境の高度化・多様化に應對してきた。これらの構造物の安全と機能こそは、建設省当局の指導と学会等の研究機関の研究成果を生かしつつ、我々構造設計者の不断の努力により実現され保障されてきたのである。

美と経済、心と技術の調和を保ちつつ、建築の機能を達成し、自然の災害から人命と文化を守るという重責こそ構造設計者の役割である。特に日本という国土の自然条件の特殊性、すなわち、世界で最も強烈な地震と台風を意識するとき、構造設計者の困難と責任の重大さは諸外国の場合と比して大きいといえる。そして我々構造設計者は、現実に国民の財産を自然災害から守るといふ、社会的使命を果たしてきているのである。今日、社会は急激な変動と発展を続けている。建築物・構造物もまた複雑化・巨大化の道を歩み、これを実現させる技術は限りなく高度化し専門化している。

特に、最近において空気膜構造（エア・ドーム）、免震構造、大断面木造、スーパーストラクチュア等の新しい構造技術が実用化されるとともに、鉄筋コンクリート造建物の超軽量・超高層化技術の開発、新素材・新材料利用技術の開発、海上建築物・大深度利用の建築物に係わる技術開発等、新たな構造技術の開発のニーズも高まっており、その高度化・専門化は一層進展すると思われる。このように、建築設計における建築構造技術の重要性は極めて大きくなっており、これを担う建築構造技術者の役割と責任は今後ますます増大すると考えられるが、従来のような自主的な活動のみでは、このような社会のニーズに的確にこたえるにはおのずから限界があると思われる。

今後は、建築構造技術の研究・開発等について、より積極的に取り組むとともに、関係官庁や他の関係団体とも協調しつつ活発な活動を展開することが強く求められる。

我々は、構造の設計・監理の実務に責任をもつ専門家の集団として、建築構造の設計・監理に関する調査研究、必要な基準の作成、機関紙の発行、技術書の刊行などの活動を通して、構造の設計・監理に関する技術の進歩改善を図ることとしている。

これらの活動により、優れた構造設計を実現する基盤を造り、各会員の設計活動を通じて、社会の文化・経済の発展に寄与することを目標としている。このような活動は、延いては建築行政を実務の面からバックアップすることに繋がるものと確信しているものである。

このような諸状況を踏まえ、我が国の建築構造設計界をリードし、大多数の構造設計者の声を代弁しながら活動してきた我が構造家懇談会を発展解消し、その活動を受け継ぎながら、更に我が国の構造設計者の技術と伎倆を錬磨し、その進歩・改善を図り、社会公共の福祉増進に寄与することを目的とした、社団法人日本建築構造技術者協会の設立を図るものである。

平成元年 5 月 30 日